

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 1 号	氏 名	上松瑞穂
審 査 委 員		主 査 氏 名	片本 宏
		副 査 氏 名	末吉 益雄
		副 査 氏 名	金子 政時
<p>[論文題名]</p> <p>Risk factors for stillbirth and dystocia in Japanese Black cattle 黒毛和種における死産および難産に関するリスク要因 The Veterinary Journal, 198(2013)212-216, (doi: 10.1016/j.tvjl.2013.07.016)</p> <p>[要 旨]</p> <p>死産および難産は、肉用牛生産にとって生産性を阻害する大きな要因の一つである。しかしながら、黒毛和種牛の死産および難産の発生状況に関する報告は少なく、原因は十分に解明されていない。そこで、2006年4月から2010年3月の期間の宮崎県宮崎市、国富町および綾町に所在する905農家で飼育される黒毛和種繁殖雌牛15,378頭、計41,114回分の分娩記録を調査し、死産、難産、高出生体重による難産および異常な胎位・胎勢による難産と気温、季節、産次および妊娠期間との関連性について解析を行った。</p> <p>その結果、死産率は2.46%、難産率は8.55%であった。死産率は冬季に増加し、夏季に低下する周期的変化を示した。また、冬と春の難産率は夏と秋に比較して高かった。初産牛の死産率および難産率は、経産牛と比較して高かった。死産率は、妊娠期間281-290日と比較して、≤ 270日、271-280日、≥ 301日で高かった。難産率は、妊娠期間281-290日と比較して291-300日で低かった。よって、冬季の低温、初産、早産、過剰な出生時体重が、黒毛和種牛における死産および難産におけるリスク要因であることが明らかになった。</p> <p>以上の結果は、死産および難産の低減化対策を講ずる上で極めて重要は知見であり、今後の産業動物獣医療の発展に資すると思われ、学位に値する成果と判断した。</p>			